

## &lt; 介護・医療連携推進会議における評価 &gt; ※公表用 R7 年度

## 【事業所概要】

法人名	社会福祉法人 長岡福祉協会	事業所名	こぶし 24 時間ケアサービスステーション三和
所在地	(〒 940 - 1151 ) 新潟県長岡市三和 3 丁目 138 番地 2		

## 【事業所の特徴、特に力を入れている点】

24 時間 365 日営業。住み慣れた地域の中で築き上げた暮らしを支えていく。  
情報共有にはタブレットを使用し、多職種連携にも活用している。

## 【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2025 年 9 月 30 日	従業者等自己評価 実施人数	( 8 ) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

## 【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2025 年 10 月 27 日	メンバー人数 (合計)	( 22 ) 人	※自事業所職員を含む
照会人数 (内訳)	■自事業所職員 (3 人)    ■市町村職員 (1 人)    ■地域包括支援センター職員 (1 人)    ■地域住民の代表者 (2 人)			

■利用者（1人） ■利用者の家族（1人） ■知見を有する者（3人） ■医療従事者（8人） ■その他（2人）

## ■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別研修計画の作成段階から、それぞれの経験年数に応じた役割や個別評価の結果を意識して確実にスキルアップできるよう実施する。</li> <li>・ヘルパー研修の出席率を上げる。</li> <li>・F-SOAIPに限らず、分かりやすく他職種にも伝わり易い記録を心がける。</li> <li>・ヒヤリハットを多く挙げ、対策案をコメントで挙げていくことで事故発生を防ぐ。</li> <li>・避難訓練は昨年度同様に実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所の目標に沿って各自が経験年数に応じた研修計画を立て、事業所内研修、法人研修、外部研修に参加した。</li> <li>・ヘルパー研修には多くの職員が参加できるよう、実技研修やZoom形式等、様々な方法で開催した。</li> <li>・F-SOAIPを日々の記録でも取り入れ、必要時に活用した。</li> <li>・特に重大なヒヤリハットには全員にコメントしてもらい対策を検討した。</li> <li>・防災訓練とBCP訓練を防災担当が中心となって実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に参加した職員は伝達講習を行い、得た知識を他職員と共有することができた。講師を務めることで個人のスキルアップにも繋がった。</li> <li>・事業所研修は動画視聴も含めると毎回全職員が参加できた。</li> <li>・分かりやすく簡潔な記録を心がけ、記録の精度は向上した。</li> <li>・ヒヤリハットや事故報告に対して自分事として考える習慣ができ、事故防止に繋がった。</li> <li>・防火管理者だけでなく、一般職員の防災担当者も訓練計画立案から携わりより自分事として参加することができた。参加者が偏りがちになるため全員が参加できるよう調整が必要。</li> </ul>	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業所ミーティングの開催日を見直し、多数参加できるように配慮する。難しいところは少人数や1on1ミーティングでカバーする。</li> <li>・全職員が重要事項を説明できるよう、1人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数でのミーティングを複数回開催し利用者の状態変化に応じたサービスについて検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が一堂に会してのミーティング開催は難しかったが、事前に資料を提示し意見を聴取することで個々の状態に合わせたサービスを検討することができた。</li> </ul>

		1冊配布し読み解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービス提供責任者研修にて、契約書と重要事項説明書について理解を深める研修を行った。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・契約・重要事項の説明についてはまずは管理者、サ責間で理解を深めた。今後一般職員にも伝達していきたい。</li> </ul>
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インフォーマルサービスについての理解をさらに深め、的確な提案を行う。</li> <li>・推進会議の委員を昨年度以上に多職種の事業所に依頼し、連携の強化を図る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多職種間研修や市から出ているガイドブック等でインフォーマルサービスについて学び、必要時には利用者やケアマネジャーに提案した。</li> <li>・今年度より、薬局の薬剤師の方にも推進委員を依頼し参加していただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマル・インフォーマルに関わらず、利用者の生活の継続において必要と思われるサービスについてはケアマネや利用者本人に積極的に提案することができた。</li> <li>・推進会議では薬剤師の方の参加により、医療面の意見交換が活発に行われた。個人ケースにおいても薬の変更の提案等をしていただき、連携が強化された。</li> </ul>
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での介護講座で訪問介護や定期随時の紹介・説明を行う。</li> <li>・宮内地区の民生委員・児童委員の集まりに参加させてもらい、地域課題を抽出する。</li> <li>・推進会議や病院説明会で使用した事例を集めた事例集を作成し、ケアマネ等に配布。新規獲得に繋げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千手地区のお茶の間サロン「こよし会」にて定期的にミニ介護講座を開催。</li> <li>・宮内地区の民生委員の集まりには参加できなかったが、千手地区への参加は継続して行った。</li> <li>・定期随時の事例をいくつかまとめた物を作成し、居宅で紹介させていただいた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ介護講座では地域住民や民生委員向けに介護保険制度について分かりやすく説明することができた。</li> <li>・宮内地区への地域啓発活動は進展せず。</li> <li>・居宅での定期随時の事例紹介は分かりやすかったと好評で、実際の新規獲得にも繋がった。</li> </ul>
III. 結果評価 (評価項目 33～34)		<ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き「自立支援」を目標に、利用者の生活習慣や今後の希望に即したケアを提供する。</li> <li>・緊急時だけでなく、普段のちょっとした気づきも他職種と共有し、より良いサービスに繋げていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、重度化防止を意識した計画書作成を行い、サービスを提供した。</li> <li>・排泄コントロールや皮膚状態の悪化時、入浴動作の評価等において多職種と情報を共有し検討した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、重度化防止に着目したケアを提供することができた。状態変化に合わせてその都度評価し、ケアの見直しをすることで在宅生活の維持に繋がった。</li> <li>・普段からフェニックスネットで情報を共有しているため、変化があった時の検討もスムーズに行えた。</li> </ul>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部研修に参加した職員は伝達講習を行い、得た知識を他職員と共有することができた。講師を務めることで個人のスキルアップにも繋がった。</li> <li>・事業所研修は動画視聴も含めると毎回全職員が参加できた。</li> <li>・分かりやすく簡潔な記録を心がけ、記録の精度は向上した。</li> <li>・ヒヤリハットや事故報告に対して自分事として考える習慣ができ、事故防止に繋がった。</li> <li>・防火管理者だけでなく、一般職員の防災担当者も避難訓練計画立案から携わりより自分事として参加することができた。参加者が偏りがちになるため全員が参加できるよう調整が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が個々の目標に応じた外部研修に参加できるよう、個別研修計画作成時に具体的に計画するよう働きかける。</li> <li>・老計第 10 号についての研修を行い、全員が根拠に基づいた訪問介護計画書を作成できるようにする。</li> <li>・ヒヤリハットの取り組みを更に強化し、事故 0 を目指す。</li> <li>・地域住民参加型の防災訓練を企画、実施し、地域の防災力向上に寄与する。</li> </ul>
II. サービス提供等の評価	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～21)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員全員が一堂に会してのミーティング開催は難しかったが、事前に資料を提示し意見を聴取することで個々の状態に合わせたサービスを検討することができた。</li> <li>・契約・重要事項の説明についてはまずは管理者、サ責間で研修を行い理解を深めた。今後は一般職員にも伝達していきたい。</li> </ul> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 22～27)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォーマル・インフォーマルに関わらず、利用者の生活の継続において必要と思われるサービスについてはケアマネや利用者本人に積極的に提案することができた。</li> <li>・推進会議では薬剤師の方の参加により、医療面の意見交換が活発に行われた。個人ケースにおいても薬の変更の提案等をしていただき、連携が強化された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミーティング形式は今年度の方法を継続。管理者以外も議事進行役を務め、会議を遂行する力を習得する。AI による議事録アプリも積極的に使用し、効率的に進行する。</li> <li>・管理者、サ責以外も担当者会議や契約時に同行し、契約や重要事項についての知識を深める。</li> <li>・推進会議委員に新たに近隣の保険外サービスを実施する事業所の方にも参加してもらい、保険外サービスについての理解を深めると共に多様な意見交換ができるよう努める。</li> </ul>

	<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 28～32)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミニ介護講座では地域住民や民生委員向けに介護保険制度について分かりやすく説明することができた。</li> <li>・宮内地区への地域啓発活動は進展せず。</li> <li>・居宅での定期随時の事例紹介は分かりやすかったと好評で、実際の新規獲得にも繋がった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・民児協への出張講座は継続。民生委員の皆さんから介護に関する困りごと、地域の課題を聞き取り講座内容に反映する。</li> <li>・宮内地区の民児協にも参加させていただく。</li> <li>・居宅への事例紹介は継続。現時点で定期随時のご利用がない居宅にも拡大する。</li> </ul>
<p>Ⅲ. 結果評価 (評価項目 33～34)</p>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自立支援、重度化防止に着目したケアを提供することができた。状態変化に合わせてその都度評価し、ケアの見直しをすることで在宅生活の維持に繋がった。</li> <li>・普段からフェニックスネットで情報を共有しているため、変化があった時の検討もスムーズに行えた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者が住み慣れた地域での生活を継続できるよう、利用者を取り巻く地域住民との繋がりを重視したケアを提供する。</li> <li>・認知症になっても生活を継続できる地域づくりを目指し、個々の職員の認知症の方への対応力の向上を図ると共に認知症サポーターキャラバンの活動を充実させる。</li> </ul>

※自己評価・介護・医療連携推進会議における評価の総括を記載します